

サステナビリティ事例

～スポーツイベントを通じて、明るく持続可能な未来へ～



2015年から国連により持続可能な発展目標（SDGs）が採択されました。それらの目標を達成するため、政府および企業による多くの取り組みが進められていて、社会でもさまざまな活動が行われています。今回、Positive Impactはスポーツイベントを通じてどのような目標を達成できるかをご紹介します。

◎SDGsとスポーツイベント

国連により、2015年12月に持続可能な開発目標（SDGs）が採択され、これらの目標と合わせるために、政府および企業が戦略、製品、コミュニケーションなどを調整してきました。スポーツイベントでも例外ではありません。

FIFAワールドカップは、サッカーの世界最高峰の大会と位置付けられ、世界で最も観戦され、影響力を持っているスポーツイベントです（FIFAによると、2010年ワールドカップ決勝戦のテレビ視聴者数は世界人口の46.4%でした）。

2018 FIFAワールドカップでは、そのグローバルスポンサー（例：マクドナルド、コカ・コーラ、VISA）が、サステナビリティ戦略の一環として、国連の持続可能な発展目標（SDGs）に向けて、さまざまな取り組みを行っていました。さらに、世界中のサッカークラブ（例：ルイスFC、マンチェスター・ユナイテッドFCなど）も色々な取り組みを行っています。このようなグローバルな団体が活動を展開することで、スポーツ産業における腐敗、不平等、賄賂などを防ぐことが可能ではないかと期待されています。

◎スポーツイベントを通じて達成されたSDGs

5 ジェンダー平等を実現しよう



目標5：ジェンダー平等を実現しよう

2017/18シーズンの初めに、ルイスFC^[1]は世界で初めて女性チームとして男性チームと同じ予算が組まれたプロ（セミプロ）・クラブになりました。監督は「それは正しいことでした。女性も男性と同様に欲望と野心を持っています。彼女たちが女性であるという理由だけで、男性と同じチャンスを得ることができないということは、今の時代では受け入れられません」と語りました。

目標10：人や国の不平等をなくそう

2018年に開催されたFIFAワールドカップで、スウェーデンサッカー協会と人権擁護団体が、ロシアの人権擁護団体と会見し、試合開始前に、協会のメンバー、選手、スタッフなどがロシアの人権状況について知らされました。

10 人や国の不平等
をなくそう



11 住み続けられる
まちづくりを



目標11：住み続けられるまちづくりを

マンチェスター・ユナイテッドFC^[2]は、2005年に設立されたクラブです。地域コミュニティと協働し、利益をもたらすことに貢献しているために、地域社会へ大きな影響を与えています。例えば、青少年応援プロジェクトなどです。地元の若者たちが、試合当日のボランティアなどに関与できる機会が提供されています。また、国際女性デー、国際青少年デーなどに応じて、年間を通じてさまざまなイベントも開催されています。

目標15：陸の豊かさも守ろう

2018年に開催されたFIFAワールドカップで、日本代表の選手やファンたちが、試合後にスタジアムやロッカールームを清掃し、環境にやさしい行動をとったとして、世界から良い評価を得ました。日本対セネガルの試合でも、両チームのファンが協力し、試合後にスタジアムをきれいに清掃しました。

15 陸の豊かさも
守ろう



注記：

[1]ルイスFCとは、イングランド、イースト・サセックス州のルイスを本拠地とするサッカークラブチームです。

[2]マンチェスター・ユナイテッドFCとは、イングランド・マンチェスターを本拠地とする、イングランドプロサッカーリーグに加盟するプロサッカークラブです。

本件に関するお問い合わせ先

Positive Impact日本事務局（株式会社セレスポ サステナブルイベント研究所内）

170-0004 東京都豊島区北大塚1-21-5

Tel: 03-5974-1111 E-mail: cd@cerespo.co.jp

URL : <http://www.positiveimpactevents.com/positive-impact-japan>



Positive Impact Japan

